

市議団速報

e-mail:info@jcp-niigata-shigidan.com NO145

2016年7月30日
日本共産党
新潟市議会議員団
電話 025-226-3450
FAX 025-223-7748



「新潟市政の無駄遣いを止めさせる会」の集会で講演する藤堂准教授

7月23日、新潟市政の無駄遣いを止めさせる会（齋藤裕代表）主催の集会「考えよう！新潟市の公共交通とまちづくり」が開催され、90名の市民が参加しました。

齋藤代表の挨拶のあと、「人と環境にやさしい交通をめざして」というテーマで、新潟大学経済学部准助教授の藤堂史明氏による講演が行われ、各分野からの発言では、日本共産党市議会議員団の五十嵐完二議員が、今年度予算化されたBRT専用走行路の社会実験につ

「考えよう！新潟市の公共交通とまちづくり」の集会在開かれる

いて報告を行いました。

欧米の公共交通への公費負担率は8割前後

藤堂氏は交通手段への権利は、基本的な人権の一部であると、欧米の公共交通普及が進む地域における公費負担率は8割前後という現状からすれば、運賃収入を主要財源とする日本の公共交通体系は、世界的に極めてまれであると指摘。また欧米の自治体予算は道路関係10に対して公共交通2の割合であるが、新潟市の予算ではおよそ100対1に過ぎないとも指摘しました。

新潟市はBRTといいながら、専用走行路がないなどBRTのスペックをおよそ満たさないものを作ったのであるから、トラブルや市民からの不満が出るのは当然であるとし、公共交通政策においては、利用者市民の意見を聴き、根拠と論理を明らかにして政策を推進するという対話型の政策が求められると述べました。



集会で発言する五十嵐議員

BRT導入後 来客数が10%も減に

各分野からの発言では、金井三久・新古町商店街会長は、同氏が経営する店の来客数がBRT導入後の昨年9月から今年5月まで、前年度比約10%の減となり、客層の大半を占める女性の高齢者が来店しにくくなっている現状を報告しました。

五十嵐議員がBRT専用走行路の社会実験で発言

五十嵐完二議員は、今年の秋に予定されている専用走行路の社会実験により、車線が減少し交通障害が予想されると指摘。

現在でも8分で設定されている新潟駅―古町間に速達性をさらに上げるために、7億2千万円もかけて専用走行路を作る必要性はまったくないとし、市民からの要望もない状況での専用走行路設置について、「市民の合意が

得られぬまま軌道式のLRTに進もうとしているのではないかと指摘しました。

党議員団が「シニア半わり」受付窓口の拡充を申し入れ

日本共産党議員団がかねてから要望してきたバス運賃の「シニア半わり」が9月12日からいよいよスタート。しかし、市民からは「市役所の受付窓口まで行くのは大変」「区役所にも窓口を設置して欲しい」などの声寄せられています。

党議員団は7月22日、市に対して、受付窓口の拡大・拡充と高齢者の運賃無料化を求めて申し入れを行いました。市は、区役所等への窓口設置について「検討する」と回答しました。

市議団の日程

- 7月27日(水)～29日(金)
環境建設常任委員会行政視察（飯塚議員）
- 7月30日(土)～8月1日(月)
第58回自治体学校（五十嵐議員、平議員）
- 8月3日(水) 都市計画審議会（五十嵐議員）
- 8月3日(水)～4日(木)
阿賀北議会行政視察（飯塚議員）